

## 原著論文

石巻市沖から得られた北限記録となるハナナガソコホウボウ（スズキ目  
ホウボウ科）の形態異常個体Morphological Abnormality in a Specimen of *Pterygotrigla macrorhynchus*  
(Perciformes: Triglidae) from off Ishinomaki, Miyagi Prefecture, Japan, with  
a Note on the Species' Range Extension矢頭卓児<sup>1)</sup>・手良村知功<sup>2)</sup>・松下亮介<sup>3)</sup>・瀬能 宏<sup>4)</sup>Takuji YATO<sup>1)</sup>, Akinori TERAMURA<sup>2)</sup>, Ryosuke MATSUSHITA<sup>3)</sup> & Hiroshi SENOU<sup>4)</sup>

**Abstract.** A single specimen of *Pterygotrigla macrorhynchus* Kamohara, 1936 (Perciformes: Triglidae) was collected from the Pacific coast off Ishinomaki, Miyagi Prefecture, Japan. This specimen is small (57.2 mm in standard length), and has a vertebral abnormality. It represents the northernmost record of this species.

**Key words:** northernmost record, *Parapterygotrigla*, vertebrae

## 緒言

スズキ目 Perciformes ホウボウ科 Triglidae のソコホウボウ属 *Pterygotrigla* Waite, 1899 は、第 2 背鰭基底に沿った骨質板を欠くこと、吻突起は左右 1 対の明瞭な棘をもつことを特徴とし (Waite, 1899)、インドー太平洋の熱帯から温帯域に分布し、これまでに 31 有効種が報告されている (Fricke et al., 2022)。これらのうち吻突起が細長い扁平な棒状であること、鼻骨に上向き of 1 小棘があること、後頭骨棘と上膊棘が長大であること、主鰓蓋棘が小さいことを特徴とする亜属 *Parapterygotrigla* には以下の 6 種が含まれる：ハナナガソコホウボウ *Pterygotrigla macrorhynchus* Kamohara, 1936; オニソコホウボウ *P. multiocellata* (Matsubara, 1937); *P. hoplites* (Fowler, 1938); *P. megalops* (Fowler, 1938); *P.*

*robertsi* del Cerro & Lloris, 1997; *P. jacad* Richards & Yato, 2014 (Richards & Yato, 2014)。

2020 年 4 月 3 日に宮城県石巻沖で操業された底曳網漁の漁獲物から第 3 著者の松下により亜属 *Parapterygotrigla* の 1 個体が採集された。本標本は、吻突起が破損しているものの、左右 1 対の扁平で著しく長い棒状であると推測できること、鼻骨に小さな突起状の 1 上向棘があること、吻が長く吻長が頭長の 56% であることで、蒲原 (1936) が記載したハナナガソコホウボウ *P. macrorhynchus* に一致する。しかしながら、タイプ産地の土佐湾や駿河湾で採集された標本とは、頭長や第 1 背鰭前長、体高など多くの形質で標準体長に対する割合が大きく異なっていた。本研究では、その違いが脊椎骨の形態的な異常に起因するものであり、その標本がハナナガソコホウボウに同定される根拠につ

<sup>1)</sup> 兵庫県立神戸高等学校  
〒657-0804 兵庫県神戸市灘区域の下通 1-5-1  
Hyogo Prefectural Kobe Senior High School,  
1-5-1 Shironoshitadori, Nada-ku, Kobe, Hyogo 657-  
0804, Japan  
ichthy-hobo\_yt@hi-net.zaq.ne.jp

<sup>2)</sup> 東京大学大学院農学生命科学研究科附属水産実験所  
〒431-0214 静岡県浜松市西区舞阪町弁天島 2971-4  
Fisheries Lab., Graduate School of Agricultural and Life

Sciences, University of Tokyo, 2971-4 Bentejima, Maisaka-  
cho, Nishi-ku, Hamamatsu, Shizuoka 431-0214, Japan

<sup>3)</sup> 〒986-0805 宮城県石巻市大橋 1-9-15-103  
1-9-15-103 Ohashi, Ishinomaki, Miyagi 986-0805, Japan

<sup>4)</sup> 神奈川県立生命の星・地球博物館  
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499  
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History,  
499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan

いて論じる。また、本標本がハナナガソコホウボウに同定されたことにより、宮城県石巻沖が本種の北限記録地となるので併せて報告する。

## 材料と方法

入手した個体は、10%中性ホルマリン水溶液で固定した後、70%エタノール水溶液に置換し、神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類標本資料(KPM-NI)として登録した。なお、同館の資料番号は、電子台帳上では桁を埋めるための0を付加した7桁の数字が使われているが、本稿では0を省略し、資料番号として本質的な有効数字で表記した。

標本の計数・計測方法はYato & Heemstra (2019)にしたがった。計測にはデジタルノギスを用い、0.1 mmまで測定した。体各部の割合は標準体長(SL)もしくは頭長(HL)に対する百分率で表した。脊椎骨は軟エックス線写真を撮影して計数した。体各部の割合の比較に用いた*P. macrorhynchus*の原記載(蒲原, 1936)の計測値は投影法で計測されているが(故岡村収高知大学名誉教授からの私信)、その標本は紛失しているため(遠藤広光高知大学教授からの私信)、原記載の測定値をそのまま引用して近似値を求めた。

本研究で観察または引用した他の標本は、神奈川県立生命の星・地球博物館の他に高知大学理工学部(BSKU)に保管されている。

## 結果

### ハナナガソコホウボウ

#### *Pterygotrigla macrorhynchus* Kamohara, 1936

(Figs. 1–5, Table 1)

#### 記載標本

KPM-NI 63086, 57.2 mm SL, 宮城県石巻市金華山沖, 水深50–60 m, 底曳網。

#### 記載

頭部も含め体全体はやや側扁する。頭は大きく、頭長は標準体長の49.5%、頭長に対する頭高は47.7%、頭幅は31.4%。吻突起は破損しているが、残存部は背腹方向に強く扁平し、突起の幅はやや広い。吻は長く標準体長の26.7%、眼窩径の2.1倍。鼻骨に小さな1上向棘ある。鋤骨歯はない。両顎歯は絨毛状で歯帯を形成する。口蓋骨に歯はない。上顎は頭長の37.1%、上顎後端は眼窩前縁下よりかなり前方に位置し、その距離は吻長の約1/3。眼はやや大きく、眼窩径は

頭長の25.4%、眼窩上には先の尖った眼後棘が1本ある。両眼間隔幅は眼窩径と同長で、頭長の25.4%。後頭骨棘は強大で後端は第1背鰭第3棘基部を越える。上膊棘の後端は第1背鰭起部下に僅かに達しない。主鰓蓋骨棘は短く、眼窩径の約1/2倍。前鰓蓋骨棘は1本で、小さい。体背部は第1背鰭基部で著しく盛り上がり、体高は標準体長の27.1%。第1背鰭前長および第2背鰭前長、胸鰭起部前長、腹鰭起部前長はいずれも長くて、それぞれ標準体長の56.5%、70.1%、46.2%、37.4%。第1背鰭基底長および第2背鰭基底長、臀鰭基底長はやや短く、それぞれ標準体長の17.0%、21.0%、21.0%。尾柄長は標準体長の13.6%、尾柄高は6.5%。第1背鰭は8棘、第2背鰭は12軟条で第4軟条以降は分枝する。臀鰭は10軟条で第5軟条以降は分枝する。尾鰭の分枝軟条数は9。胸鰭は下部3本の遊離軟条を除いて13軟条で、胸鰭長はやや長く、標準体長の36.5%、その後端は臀鰭第8軟条基部上方に達する。胸鰭遊離軟条は長く、最長の軟条は標準体長の49.0%、後端は胸鰭後端を越えて、臀鰭第9軟条基部上方に達する。腹鰭は1棘5軟条、第2軟条が最長で標準体長の29.9%、その後端は臀鰭第2鰭条基部上に達する。先頭の左右が癒合する骨質板を含めて背鰭基底に接する骨質板数は9。体表鱗は小さな円鱗。項部および胸部、両腹鰭基底間は無鱗。側線鱗はやや細長い楕円形、鱗上は滑らかで粘液管の分枝は無い。脊椎骨数は腹椎10、尾椎(尾部棒状骨を含む)17で合計27個。本標本は駿河湾産の標本(KPM-NI 65365)と比べて明らかに脊椎骨に変形と脊柱の湾曲がみられる(Figs. 1, 2)。第1–6、第13–15脊椎骨は委縮しており、その長さは前後の正常な脊椎骨の約1/2程度しかない。また、第1脊椎骨から第15脊椎骨にかけて背側への強い湾曲がある。

色彩：鮮時(Fig. 3)では、頭部背面と側面は薄い赤色で、腹面は白い。眼後棘は黒色。軀幹部から尾部にかけての上半部の地色は薄い赤色で、両背鰭基底部下と尾柄部に不明瞭な緑黄色域が鞍状に広がる。下半部と腹部は白色。第1背鰭は白色で、第1–5棘の鰭膜の上半部は黒色。第2背鰭と臀鰭、尾鰭は白色。胸鰭内面は第11–13軟条間が白色、第1–11軟条間には黒色と白色の不明瞭な横帯がみられる。腹鰭は第2–4軟条間が黒色、他は白色。

アルコール液浸標本(Fig. 4)では、赤色が退色して全体が薄い桃色で、両背鰭基底部下と尾柄部に不明瞭な暗色域が鞍状に広がる。眼後棘は黒色。腹部は白色。第1背鰭の第1–5棘の鰭膜の上半部は黒色。第2背鰭、臀鰭と尾鰭は白色。胸



Fig. 1. X-ray photograph of *Pterygotrigla macrorhynchus*, KPM-NI 63086, 57.2 mm SL. Photo by N. Sawada.

図 1. ハナナガソコホウボウ（軟エックス線写真），KPM-NI 63086，標準体長 57.2 mm，澤田尚磨撮影。



Fig. 2. X-ray photograph of *Pterygotrigla macrorhynchus*, KPM-NI 65365, 71.5 mm SL. Photo by Y. Inoue.

図 2. ハナナガソコホウボウ（軟エックス線写真），KPM-NI 65365，標準体長 71.5 mm，井上裕太撮影。

鱗内面は第 11–13 軟条間が白色、第 1–11 軟条間には黒色と白色の不明瞭な横帯がみられる (Fig. 5)。腹鱗は第 2–4 軟条間が薄い黒色、他は白色。

#### 分布

インド洋，オーストラリア東北岸と西北岸，フィリピン，南シナ海，東シナ海，土佐湾，熊野灘，遠州灘（蒲原，1936; Fowler, 1938; 山田・柳下，2013; Richards & Yato, 2014; Yato, 2019; Teramura et al., 2022）。

#### 比較標本

ハナナガソコホウボウ 5 個体：BSKU 360, 92.6 mm SL，高知県御豊瀬魚市場（土佐湾），BSKU 5100, 159.5 mm SL，高知県御豊瀬魚市場（土佐

湾），BSKU 105374, 93.8 mm SL，高知県御豊瀬魚市場（土佐湾），BSKU 108952, 98.0 mm SL，KPM-NI 65365, 71.5 mm SL，静岡県駿河湾。

#### 考 察

石巻沖で得られた標本は、吻突起の大部分が破損しているが、残存部の形状からそれが細長い扁平な棒状であったと推測される。また、その鼻骨には上向きの1 小棘があり、上膊棘はやや短いが後頭骨棘が長大であること、主鰓蓋棘が小さいことから、亜属 *Parapterygotrigla* に帰属する種の特徴を示している (Richards & Yato, 2012, 2014)。本亜属には 6 種が含まれるが (Richards & Yato, 2014)、本標本は鼻骨に小さな突起状の 1



Fig. 3. Lateral view of *Pterygotrigla macrorhynchus*, KPM-NI 63086, 57.2 mm SL in fresh condition. Photo by A. Teramura.  
図 3. ハナナガソコホウボウ (鮮時; 側面), KPM-NI 63086, 標準体長 57.2 mm, 手良村知功撮影 .



Fig. 4. Lateral view of *Pterygotrigla macrorhynchus*, KPM-NI 63086, 57.2 mm SL in alcohol. Photo by T. Yato.  
図 4. ハナナガソコホウボウ (アルコール液浸標本; 側面), KPM-NI 63086, 標準体長 57.2 mm, 矢頭卓児撮影 .

Table 1. Counts and proportions of *Pterygotrigla macrorhynchus*

表 1. ハナナガソコホウボウの計数値および計測値

	Kamohara (1936) #				BSKU 360	BSKU 5100	BSKU 105374	BSKU 108952	KPM-NI 65365	KPM-NI 63086
	Tosa Bay	Tosa Bay	Tosa Bay	Tosa Bay	Tosa Bay	Tosa Bay	Tosa Bay	Tosa Bay	Suruga Bay	off Ishinomaki
<b>Counts</b>										
First dorsal-fin spines	7	7	7	7	7	7	8	7	7	8
Second dorsal-fin rays	12	12	13	12	12	12	12	12	12	12
Anal-fin rays	12	12	12	12	12	12	12	12	12	10*
Pectoral-fin rays	17	-	-	-	16	16	16	17	15	16
Pelvic-fin rays	1.5	-	-	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
Branched caudal-fin rays	-	-	-	-	5+4	5+4	5+4	5+4	5+4	5+4
Lateral line scales	60	-	-	-	57	59	57	55	58	56
Bony plates	10	-	-	-	10	10	10	10	9	9
Gill-rakers	-	-	-	-	2+11	1+10	-	2+9	1+15	-
Vertebræ with urostyle	-	-	-	-	9+17	9+17	10+17	10+17	10+17	10+17
<b>Measurements (mm)</b>										
Total length	228	180	118	69	111.4	187.5	112.9	118.2	86.1	70.0
Standard length	186	145	95	54	92.6	159.5	93.8	98.0	71.5	57.2
<b>% of SL</b>										
Distance from snout to 1st dorsal fin	-	-	-	-	48.3	47.1	48.8	45.6	49.9	56.5*
Distance from snout to 2nd dorsal fin	-	-	-	-	65.1	65.6	66.5	63.1	66.4	70.1*
Distance from snout to pectoral fin	-	-	-	-	39.4	37.8	39.3	38.9	42.5	46.2*
Distance from snout to pelvic fin	-	-	-	-	35.1	33.5	34.2	34.9	34.5	37.4*
Distance from snout to anal fin	-	-	-	-	64.4	60.6	62.2	62.0	64.3	67.1*
Body depth in front of 1st dorsal	23.1	23.4	25.3	25.9	21.3	21.8	22.5	21.8	22.0	27.1*
Body width at cleithral base	-	-	-	-	14.5	14.4	13.8	15.0	14.1	16.4*
Caudal peduncle length	-	-	-	-	11.9	12.4	13.4	14.1	12.4	13.6
Caudal peduncle depth	5.4	5.5	6.3	5.6	5.5	5.2	5.8	5.1	5.9	6.5*
First dorsal-fin base length	-	-	-	-	17.7	19.5	19.3	17.6	17.1	17.0*
Second dorsal-fin base length	-	-	-	-	24.9	26.6	26.2	26.1	24.3	21.0*
Anal-fin base length	-	-	-	-	23.9	25.4	25.9	24.8	23.2	21.0*
Head length	41.4	41.4	42.1	44.4	42.3	40.9	43.1	40.5	44.9	49.5*
Snout length	22.6	22.8	22.1	20.4	21.7	23.3	23.2	23.1	24.8	26.7*
Length of 1st detached pectoral-fin ray	-	-	-	-	40.3	34.9	41.2	37.9	44.3	49.0*
Length of 2nd detached pectoral-fin ray	-	-	-	-	36.1	32.2	35.3	32.1	39.0	40.4*
Length of 3rd detached pectoral-fin ray	-	-	-	-	33.7	29.2	32.3	34.0	36.8	35.8
Pectoral-fin length	36.0	37.2	42.1	42.6	32.3	35.5	35.3	25.0	29.9	36.5*
Pelvic-fin length	23.1	24.1	25.0	27.8	27.4	23.4	25.7	25.0	26.4	29.9*
<b>% of HL</b>										
Head depth at middle of orbit	-	-	-	-	47.7	44.5	49.0	49.9	45.8	47.7
Head width at preopercle	-	-	-	-	29.6	32.8	29.5	37.8	27.4	31.4
Snout length	54.5	55.0	52.5	45.8	54.6	56.7	54.2	53.7	55.1	54.1
Height of suborbital stay	-	-	-	-	23.0	23.6	26.0	25.7	23.1	25.8
Upper jaw length	-	-	-	-	38.3	37.1	37.9	37.0	37.1	37.1
Lower jaw length	-	-	-	-	50.5	48.5	50.2	49.1	52.0	51.6
Orbit diameter	19.5	20.0	22.5	25.0	23.2	19.9	22.5	22.9	24.3	25.4*
Interorbital width	22.1	21.7	25.0	29.2	22.4	22.4	22.5	24.4	22.4	25.4*
Opercular spine length	-	-	-	-	15.1	16.3	15.6	16.6	16.5	13.8*

# Each entry was quoted and/or calculated from the original description. Asterisks (\*) indicate the lower or higher scores from the range of comparative specimens.

上向棘を備え、吻が長く吻長が頭長の56%であることが、蒲原(1936)が土佐湾産の4標本(体長54–186 mm; ホロタイプは体長145 mm)に基づき記載した *Pterygotrigla macrorhynchus* の標徴に一致する (Richards & Yato, 2014; Table 1)。

しかしながら、本標本を高知県土佐湾産や静岡県駿河湾産の5標本(比較標本の項参照)と比較すると、以下のように多くの計測形質で差がみられた (Table 1)。本標本の第1背鰭前長は標準体長の56.5% (比較標本5個体では45.6–49.9% [以下同])、第2背鰭前長は70.1% (63.1–66.5%)、胸鰭起部前長は46.2% (37.8–42.5%)、腹鰭起部前長は37.4% (33.5–35.1%)、体高は27.1% (21.3–22.5%)、体幅は16.4% (13.8–15.0%)、尾柄高は6.5% (5.1–5.9%)、第1背鰭基底長は17.0% (17.1–19.5%)、第2背鰭基底長は21.0% (24.3–26.6%)、臀鰭基底長は21.0% (23.1–25.9%)、頭長は49.5% (40.5–44.9%)、吻長は26.7% (21.7–24.8%)、胸鰭長は36.5% (25.0–35.5%)、胸鰭第1遊離軟条長は49.0% (34.9–44.3%)、胸鰭第2遊離軟条長は40.4% (32.1–39.0%)、腹鰭長は

29.9% (23.4–27.4%)。また頭長に対する眼窩径は25.4% (19.9–24.3%)、両眼間隔幅は25.4% (22.4–24.4%)、主鰓蓋骨棘長は13.8% (15.1–16.6%)。さらに計数形質において本標本の臀鰭軟条数は10本と少ない (12本)。

これら差異のある計測形質のうち、第1背鰭前長および第2背鰭前長、胸鰭起部前長、腹鰭起部前長、体高、体幅、尾柄高、頭長、吻長、胸鰭長、胸鰭第1遊離軟条長、胸鰭第2遊離軟条長、腹鰭長の標準体長に対する割合は比較標本よりも大きく、脊椎骨の変形と脊柱の湾曲による標準体長の縮小によるものと考えられる。第1背鰭基底長と第2背鰭基底長の割合は逆にやや小さくなっているが、脊椎骨の委縮に伴って各担鰭骨の間隔が狭くなり基底長が短くなったためと考えられる。臀鰭基底長が短いのは臀鰭軟条数の少なさに起因すると思われる。頭長に対する各部の割合について比較標本と差のない形質が多いことは、頭骨には異常がないが故のことであり、上述の推測の証左と考えられる。一方、眼窩径および両眼間隔幅、主鰓蓋骨棘長にはやや大きな差が



Fig. 5. Inner surface of pectoral fin of *Pterygotrigla macrorhynchus*, KPM-NI 63086, 57.2 mm SL in alcohol. Photo by T. Yato.

図 5. ハナナガソコホウボウの胸鰭内面 (アルコール液浸標本), KPM-NI 63086, 標準体長 57.2 mm, 矢頭卓児撮影.

みられ、それぞれ 25.4 % (19.9–24.3 %)、25.4 % (22.4–24.4 %)、13.8 % (15.1–16.6 %) であった。そこで本標本 (57.2 mm SL) を本種 の原記載 (蒲原, 1936) の表 (p. 483) に示されている小さいサイズの標本 (54 mm SL) と比較したところ、計測方法が異なるため近似値での比較になるが、頭長に対する眼窩径長は 25.0 % でほぼ同じ値を示し、両眼間隔幅は 29.2 % と本標本より大きい値を示した。現段階では十分な標本が得られておらず、

確実なことは言えないが、成長に伴う差異である可能性が考えられる (Table 1)。

一方、本標本の計数形質については臀鰭軟条数が 10 本と少ない。Richards & Yato (2014) ではインド洋と太平洋から得られた本種の 32 標本に基づく臀鰭軟条数を 11–13 であるとしており、本標本はこの範囲を超えている。軟エックス線写真を見る限り、臀鰭の担鰭骨に異常は認められず、また脊椎骨の異常との関連も不明であるが、ここでは個体変異の範囲とみなしておく。

標準体長に対する各部分の割合にみられる大きな変異は、脊椎骨の変形と脊柱の湾曲によるものであり、本標本はハナナガソコホウボウに同定して差し支えないと判断できる。

本種はこれまで遠州灘以南から記録されており (分布の項参照)、本標本の得られた宮城県石巻市沖は本種の北限記録になる。

## 謝 辞

本研究をおこなうにあたり、遠藤広光博士 (高知大学理工学部) には標本借用および原記載標本の情報の便宜を図っていただいた。さらに、澤田尚磨氏と井上裕太氏 (高知大学理工学部) には軟エックス線写真の撮影をしていただいた。心よりお礼申し上げます。

## 引用文献

- Fowler, H. W., 1938. Description of new fishes obtained by the United States Bureau of Fisheries steamer "Albatross", chiefly in Philippine seas and adjacent waters. *Proceedings of the United States National Museum*, 85(3032): 31–135.
- Fricke, R, W. N. Eschmeyer & R. Van der Laan (eds.), 2022. Eschmeyer's catalog of fishes: genera, species, references. Online: <http://researcharchive.calacademy.org/research/ichthyology/catalog/fishcatmain.asp> (accessed on 2022-6-15).
- 蒲原稔治, 1936. 魴鯰科の 1 新魚に就て. *動物学雑誌*, 48(8–10): 481–483.
- Richards, W. J. & T. Yato, 2012. The tropical species of the subgenus *Pterygotrigla* (Pisces: Triglidae: *Pterygotrigla*) with description of a new species, *Zootaxa*, 3484: 53–64.
- Richards, W. J. & T. Yato, 2014. Revision of the subgenus *Parapterygotrigla* (Pisces: Triglidae: *Pterygotrigla*), *Zootaxa*, 3768(1): 23–42.
- Teramura, A., H. Kohno, H. Senou, K. Kikuchi, S. Hirase & T. Kunishima, 2022. A preliminary deep-sea fish fauna list with new and northernmost records, in the continental shelf to the upper continental slope in the east Enshu-nada Sea, central Japan. *Plankton and Benthos Research*, 17(1): 95–99.

- Waite, E. R., 1899. Fishes. Australian Museum Memoir, 4(1): 27–128, pls. 1–31. (Published as a part of scientific results of the trawling expedition of H. M. C. S. “Thetis” )
- 山田梅芳・柳下直己, 2013. ホウボウ科. 中坊徹次編, 日本産魚類検索: 全種の同定, 第三版, pp. 720–726, 1951. 東海大学出版会, 秦野.
- Yato, T., 2019. Triglidae. In Koeda, K. & H.-C. Ho (eds.), Fishes of southern Taiwan, II, pp. 544–556. National Museum of Marine Biology & Aquarium, Pingtung, Taiwan.
- Yato, T. & E. Heemstra, 2019. A new deepwater gurnard of the genus *Pterygotrigla* (Scorpaeniformes: Triglidae) from the southwestern Indian Ocean. *Zootaxa*, 4706(1): 189–200.

## 摘 要

矢頭卓児・手良村知功・松下亮介・瀬能 宏, 2023. 石巻市沖から得られた北限記録となるハナナガソコホウボウ (スズキ目ホウボウ科) の形態異常個体. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (52): 51–57. [Yato, T., A. Teramura, R. Matsushita & H. Senou, 2023. Morphological Abnormality in a Specimen of *Pterygotrigla macrorhynchus* (Perciformes: Triglidae) from off Ishinomaki, Miyagi Prefecture, Japan, with a Note on the Species' Range Extension. *Bull. Kanagawa Pref. Mus. (Nat. Sci.)*, (52): 51–57.]

宮城県の石巻市沖で1個体のハナナガソコホウボウが採集された。本標本は標準体長 57.2 mm の若い個体で、頭長や第1背鰭前長を始め多くの計測形質で標準体長に対する割合が比較標本 (5 個体) とかなり異なるが、軟エックス線撮影の結果から本標本には脊椎骨の変形や脊柱の湾曲があり、標準体長がやや委縮していることが原因と考えられた。石巻沖は本種の北限記録である。